

## 【エクアドル内政・外交：2010年5月】

### 1. 概要

- 5月 6日 第2回南米諸国連合南米防衛評議会
- 10日 水資源法案に対する大規模抗議活動
- 10日 セラヤ元ホンジュラス大統領、当国訪問
- 18～21日 国会副議長、台湾訪問

### 2. 内政

#### (1)水資源法案を巡る抗議活動

4日、ECUARUNARI(山岳地帯の先住民)、FENOCIN(イバーラ市の先住民、政府系であるが本件には反対)等の先住民組織は、水資源法案を不服として国会を包囲した。

6日、国会審議中の水資源法案に反対する1,500名を超える先住民が国会議事堂前で抗議活動を実施した。抗議活動に参加した一部の者が議事堂周囲に張り巡らされた鋼鉄製バリケードを押し破り侵入しようとしたため、国家警察は催涙ガスを発射するなど応戦し騒然となった。当地報道では今般抗議活動により、警察官11名、及び抗議活動参加者2名が負傷し、29名の逮捕者(うち24名は学生、5名は先住民)が出たとされている。

8日午前10時頃、アスアイ県に於いてサンティ(Marlon Santi)エクアドル先住民同盟(CONAIE)代表、テネサカ(Delfin Tenesaca)ECUARUNARI代表、ペレス(Carlos Perez)アスアイ先住民組織連盟代表など150名が会談をした。会合では来る9日正午より水資源法案に反対する抗議活動を更に本格化すること、及びチンボラソ県、アスアイ県などで実施している幹線道路網の封鎖を引き続き実施する旨発表した。

10日、国会審議中の水資源法案に反対する500名を超える先住民(キチュア系オタバロ族)は、ピチンチャ県＝インバブラ県県境(キト北部)～コタカチ市間10Kmに亘り封鎖した。右抗議行動に対し国家警察は250名を動員し事態の收拾にあたった。国家警察は催涙弾を使用するものの、この抗議行動による負傷者及び逮捕者は出ていない。

同日、コトパクス県ラタクンガ市近郊に於いて、前述同様に3kmに亘り道路封鎖が為された。事態の收拾を図るため、120名を超える国家警察が動員され、午後1時頃に道路封鎖は終了した。この抗議行動による負傷者及び逮捕者は出ていない。

#### (2)水資源法案を巡る審議

3月18日、憲法裁判所(CC:Corte Constitucional)は鉱山法(2009年1月発効)につき憲法第57条17項「先住民共同体の集団権に関わるであろう法律を採択する前には、(共同体を交えた)審議を行うことを保障する」に基づき、先住民組織及び関係団体の代表者を交えた国民審議(Consulta Prelegislativa)を国会採決前に実施すべきであった旨違憲判決を下した。右判決を踏まえ、水資源法案を含め先住民組織に関連する国会審議中の法案について国民審議実施の必要性が求められることとなった。

5月13日、憲法裁判所(CC)による裁決を受け、水資源法案に関する国民審議(Consulta Prelegislativa)開催を求める動議がフェブレス・コルデロ国会議長より提出された。しかし、賛成票58・反対票60・棄権10と過半数に満たず否決となった。またホルヘ・エスカラ議員(民主大衆運動党:MPD)より同様に動議が提出されるものの、賛成票38・反対票13・棄権65と否決され、国民審議の開催は見送られることとなった。

18日、国民審議の開催が国会で否決されたが、憲法裁判所による裁決を遵守するため、国会運営委員会(CAL)は水資源法案に係る国民審議の実施を認め、係る手続きにつき審議を行った。

20日、第6回EU・中南米カリブ諸国首脳会合出席のためスペイン訪問中のコリア大統領

は「政府は投票権を持っていない。国民審議は時間の先延ばしにほかならない。明日、法案の信任投票を実施し、否決し、棚上げにすれば良い。現政権に於いて水資源法案のプライオリティーは低い」と述べ、水資源法案可決に関心が無く、法案を棚上げする意思を示した。

### (3)先住民司法適用を巡る動き

5月9日未明、コトパクス州スンバウア教区ラ・コチャ先住民共同体地区に位置する中央広場に於いて、マルコ・オリボ氏(Marco Antonio Olivo:21歳)が殴殺され、革紐で縛り吊された状態で発見された。

10日、オリボ氏親族は犯人を捜索し、フラビオ・キシペ(Flavio Quishpe)、イバン・キシペ(Ivan Quishpe)、ウィルソン・チャルイサ(Wilson Chaluisa)、クレベル・チャルイサ(Kleber Chaluisa)、及びオルランド・キシペ(Orlando Quishpe:22歳)を殺人容疑の疑いで捕えた。

16日、14の先住民共同体(総勢1,500名)からなる共同体議会は容疑者5名に対する法的措置につき審議した。共同体議会はオルランド・キシペ容疑者に対し死刑を、他4名の容疑者には鞭打ち、冷水掛けなどの刑を宣告した。

(当館注:憲法第171条『先住民司法(Indigena Justicia)』に基づき、先住民は自らの域内で発生した事案につき、自身の法に則り裁くことが保証されている。即ち、先住民地域での事件に関し、国家当局は事実上関与・介入することが出来ない。しかし、当国は死刑を容認していないため、先住民司法の適用を巡り基本的人権に抵触するとし紛糾した)

19日、ペサントス国家検察庁長官は先住民共同体幹部との協議のため、現地に赴くものの、ラ・コチャ手前2kmの所に於いて先住民が道路を封鎖したため、現地入り出来ず引き返した。ペサントス長官はオルランド・キシペ容疑者の身柄引渡しを要請する予定であったが、先住民共同体の拒絶により失敗に終わった。

22日、コリア大統領は恒例の土曜日ラジオ演説に於いて「基本的人権に背くような残虐刑は認められない。残虐刑は正義ではない。死刑は尚更である」旨述べ、先住民共同体による死刑・残虐刑を非難した。

23日、ラ・コチャ先住民共同体はオルランド・キシペ容疑者に対し、共同体での労役五年・被害者母親へ慰謝料1,750ドル・鞭打ちの刑を宣告し、検察への身柄引渡しには応じなかった。同日、キシペ容疑者への鞭打ちが70分に亘り執行された。キシペ容疑者は半裸の状態で砂袋を担ぎ広場を六周させられた後、広場の二本の支柱に両手を括り付けられ、オルティガ草(棘があり痒みを有する)で叩かれ、鞭打ち14発を受け、冷水をかけられた。

### (4)国家検察庁長官夫人が関与する交通死亡事故の裁判

1月14日、ウィルソン・ベラスティギ容疑者(Wilson Velastegui:国家警察所属警護官)はペサントス国家検察庁長官の妻アリス・ボルハ女史(Aliz Borja)を乗せた検察庁公用車を運転中、ナタリア・エメ(Natalia Emme:当時26歳・コロンビア国籍)を轢き死亡させた事件に関し、検察は懲役3年を求刑した。

5月14日、ピチンチャ県地裁は同容疑者に罰金6,240ドル(法定最低賃金の26倍)、及び3年間の運転免許証剥奪の判決を言い渡した。被害者家族は「この判決は“不当判決”である」旨怒りを顕わにしており上告する構えを見せている。

### (5)大統領罷免要求のための署名運動

19日、政治活動家であるカルロス・ベラ(Carlos Vera)はサンタ・エレーナ県に於いて反政府抗議活動を実施し、来る8月より大統領罷免要求(Revocatoria de Mandato Presidencial)のため署名活動を実施する旨発表した。ベラは「コリア大統領を追い遣るため140万の署名を集める。コリア大統領は国のために果たしていない。署名活動は困難を極めるだろうが不可能ではない」と述べた。

(当館注:憲法第105条には「国民は、民主選挙により選出した者を罷免する権利を有する。

罷免要求は就任 1 年後から任期最終年までに行わなければならない。任期中一度のみ罷免要求を行うことが出来る。罷免要求には有権者登録総数の 10%以上の支持が必要であり、大統領の罷免要求には有権者登録総数の 15%以上の支持が必要である」と明記されている。)

#### **(6) 国会議員の妻殺害事件**

27 日午後 9 時頃、エル・オロ県マチャラ市環状北通りと 6 月 25 日通りが交差する付近のレストラン「ピストロ」に於いて、カルロス・サンブラノ(Carlos Zambrano Landin)国会議員(与党:エル・オロ県選出)の妻ジェシカ・ヌケス(Jessica Alemania Nuques de Zambrano:33 歳(35 歳との報道もある)・三児の母)は友人二名と、友人の誕生日を祝していたところ、何者かにより頭部に二発の銃弾を浴び殺害された。目撃証言によれば、殺し屋は一台のバイクで仲間二名とレストランに到着。犯行中、仲間二名は外で待機していた。殺し屋はレストラン入口警備員に対し、ジェシカ・ヌケスがどうかを確認した。警備員は殺し屋とは気付かず、同人がいる場所に案内した。殺し屋は直接ジェシカ・ヌケスに身元を確認した後、銃弾二発(9mm 口径)を頭部に撃ち殺害した。犯行後、殺し屋は追跡されることなく、仲間と一緒に現場を立ち去った。事件発生当時、夫であるサンブラノ与党議員はモレノ副大統領のキューバ公式訪問に同行しており当国を離れていた。急遽、大統領専用機が飛ばされ、28 日未明に同議員は緊急帰国した。29 日、被害者の葬儀が執り行われた。

### **3. 外 交**

#### **(1) 対台湾関係**

18~21 日、イリナ・カベサス(Irina Cabezas)与党議員(国家同盟)国会第一副議長は台湾を公式訪問した。

#### **(2) 南米諸国連合南米防衛評議会**

6~7 日、グアヤキルにおいて第 2 回南米諸国連合南米防衛評議会が開催され、アルゼンチン、ボリビア、ペルー、ベネズエラ、エクアドル、ブラジル、チリの国防大臣、コロンビア国防副大臣他、加盟国の代表が参加した。

#### **(3) 対ホンジュラス関係**

10 日、コリア大統領はセラヤ元ホンジュラス大統領と会談した。先にアルゼンチンで開催された南米諸国連合(UNASUR)首脳会合では、クーデターで設立した政府を認めないとする南米諸国の共通基準を改めて確認した。